

おおよやま　ゆばなおひこ
大江山（弓場直彦）

宴は　罷み　燭　瘦せて　夜氣　腥し
うたげ　や　ともしび　や　や　なまぐさ

鉄門　窟を　銷して　妖星　瞬く
てつもん　いわや　しょう　ようせい　またた

賊怪　酔　深くして　鼯　雷の　如し
ぞくかい　よい　ふか　いびき　らい　ごと

敵中に　戦を　整う　勇士の　胆
てきちゅう　いくさ　ととの　ゆうし　たん

変化の　鬼王を　縛して　術を　封じ
へんげ　きおう　ばく　じゆつ　ふう

宝刀　一閃　その　首を　断つ
ほうとう　いつせん　その　くび　た

輩下の　面々　騒ぎ　手向うも
はいか　めんめん　さわ　てむか

忽ち　築く　屍山　血河の　城
たちま　きず　しざん　けつが　しろ

解説　酒吞童子一族が棲む洞窟に乗り込み鬼族一味を成敗する詩。

語釈　※宴Ⅱ　酒食の席を設けること。酒盛り。※燭Ⅱ　ともしび。あかり。
※夜氣Ⅱ　夜の静かな様子、気配。※腥Ⅱ　生臭いこと。※銷Ⅱ　消える。消す。
※妖星Ⅱ　あやしい不吉な星。流星。※瞬Ⅱ　灯火や星などが消えそうに明滅
する。※賊怪Ⅱ　鬼一族。※勇士Ⅱ　源頼光以下の四天王のこと。※胆Ⅱ　きもつ
たま。胆力。しつかりした心。※縛Ⅱ　縄などでしばること。※輩下Ⅱ　酒吞童
子じの鬼一族。※屍山Ⅱ　死体が山のように積み重なる。※血河Ⅱ　血が流れて川
となること。

通釈　大江山に棲む鬼達は毎晩のように宴を開いている。宴が終わると灯火
も弱くなり、腥い臭気が夜、一面に広がる。鬼族の館は洞窟で、入り口は鉄
の門でしつかりと閉じているが、屋外は不吉な星が流れていた。鬼達は宴の
酔いで轟音のいびきを発たてているところに、用意万端の勇士達が部屋に入り
込み、酒吞童子を縄で縛り、素早く彼の首を断った。雑魚の鬼共が手向むかかっ
てきたが、忽ちのうちに鬼の死体は山の如く、城の中は血が流れて川の様にな
っていた。